



ぼっぼ屋



輸送サービス労組 東京支部

2023.12.20
No. 051

東地申第22号

「社員の命・生活設計」と「安全・健全な職場」を脅かし、 労働の価値を低下させるJR東日本版ジョブローテーションの撤廃を求める申し入れ

ジョブローテーションの撤廃を求め、
「誠実交渉義務違反」を強く非難する東京支部声明

2020年4月から実施されている「新たなジョブローテーション」は、「変革2027」で目指されている社員像の達成に向けた様々な異動に活用されている。しかし、その異動の実態は、自己申告書に基づく面談を無視し、本人の希望が全く反映されず、就業規則の「任用の基準」を悪用した強制配置転換だ。簡易苦情処理件数は異常な数となっており、人事権の乱用であることは明らかである。勤務形態が大きく変わり、生活設計が崩れる環境の変化に戸惑い、体調不良で休職する社員や、乗務員から駅への異動によってなかなか覚えられない業務に悩み苦しみ、心身ともに疲労が蓄積されている中で、不十分な教育によってサービスの提供も劣化している。希望とかけ離れた現実を真に受け悩み苦しむ社員がいるこの状態が、「変革2027」で掲げられている「社員・家族の幸福の実現」とは決して言えない。

これまで積み重ねてきた知識・技能・経験によって高めてきた労働の質と価値が、「融合と連携」という言葉によって、労働の複務化、兼務化が一方的に進められ、大きく低下している。全ての系統で要員の逼迫、休日出勤を強いられ、業務を掛け持ちしなければならない。本来の目的からかけ離れ悪用されたジョブローテーションによって、要員の穴埋めが行われ、乱発される矛盾した施策で現場社員にのみ負担が押し付けられている。しかし、現場からの努力によって回復した利益は、社員へ還元されることがなくステークホルダーによって、労働意欲の低下と退職を選ぶ社員を多く生み出している。そのような賃金も働きがいも搾取する労働環境であるからこそ社員が集まらず、みどりの窓口閉鎖や改札の無人化等サービスの低下に歯止めがかかることのない悪循環は加速している。「少ない社員で業務を回し、利益率を向上させる経営の論理に基づく働き方」によって、生産性を求めるあまり付度とハラスメントが増加、その結果安全や質の高い輸送サービスが提供すらできていない。10年で異動というジョブローテーションは、知識・技能・経験が重要視されず、鉄道の専門性を急速に脅かし、公共交通を担う鉄道事業にとって最も重要な「安全」と「命」が削られている。

12月19日、東京地本は東地申第22号『社員のいのち・生活設計』と「安全・健全な職場」を脅かし、労働の価値を低下させるJR東日本版ジョブローテーションの撤廃を求める申し入れの団体交渉を行ったが、申し入れ項目に対する具体的な回答が示されず、交渉は決裂し終了した。回答すらまともに示さないJR東日本の姿勢は、今も慣れない仕事に苦しんでいる組合員に対する冒涇であり、このジョブローテーションが既に破綻している現れである。東京支部は、8月22日に強制配置転換により苦しみながらも奮闘する組合員との意見交換を実施し、ジョブローテーションの悪辣な実態を明らかにしてきた。また、12月5日には「ジョブローテーション撤廃！！安全な輸送サービスと健全な職場をつくりだす東京支部集会」を開催し、参加した83名の仲間と共に、ジョブローテーションの撤廃を求め続けていく決意を確認した。

JR東日本輸送サービス労働組合は、「安全性」「専門性」「人間性」を崩壊させるジョブローテーションに反対する立場を鮮明にしてきた。働きがいのある人間らしい仕事を取り戻し、誰一人取り残さず、安全で安心して働ける環境を輸送サービス労組東京支部からつくり出していこう！

2023年12月19日
JR東日本輸送サービス労働組合
東京支部

東京地本はJR東日本会社に
誠実交渉義務違反を通告

私たちが要求した退職者数、
休職者数を示さない！
要求に対する具体的な回答を行わない！

団体交渉拒否！

施策の失敗は明らかだ！